

三菱東京UFJ銀行貨幣資料館（愛知県名古屋市）

—民間で日本一の貨幣コレクション—

社団法人中部開発センター

企画事業部 水野 南緒

新しい観光のあり方“産業観光”が、中部圏において積極的に進められています。“産業観光”は、産業の内容を対象とする観光で、生活の中の商品・サービスが提供されるまでに、どのような歴史や技術があるのかを発見し、体験する知的好奇心にあふれた観光です。

具体的には、製造業の工場見学や、伝統産業の体験プログラム、企業博物館などがあげられます。こうした施設を訪ねる機会は、従来から社会見学や企業視察などがありましたが、特定の団体や目的に限らず、個人客や家族客などの一般観光客でも楽しめるよう門戸を広く開放していこうとするところに“産業観光”の特徴があります。

今回は、愛知県名古屋市の「三菱東京UFJ銀行貨幣資料館」を紹介します。



貨幣資料館・外観。

お金の歴史と文化に触れる施設

三菱東京UFJ銀行貨幣資料館（旧東海銀行貨幣資料館）は、昭和36年に旧東海銀行の創立20周年を記念して開館しました。世界各国の珍しい貨幣等約1万点が展示されており、民間では日本一のコレクションと高く評価されています。

4月20日より名古屋市東区赤塚町に移転し、リニューアルオープン。旧東海銀行赤塚支店跡の自社所有ビルを改築したもので、名古屋市が古い町

並み・建物の保存活用を進めている「文化のみち」地区に位置することから、外壁をレンガ色にするなど周辺的环境にも配慮しています。

今回のリニューアルオープンに合わせて世界最古の紙幣や偽造紙幣など、ただアカデミックなだけでなく、遊び心もあるユニークな展示物も増え、これまで以上に親しみのある資料や企画を充実させています。

両替屋 復元コーナー

資料館へ入るとまずに目につくのが江戸時代の「両替屋」のジオラマ復元です。両替屋とは主に手数料を取って貨幣の両替を行った商人のことで、金・銀・銅の三貨、藩札^(注)の両替以外にも預金・貸付等を行っており、現在の銀行の前身となる金融機関です。この両替屋の復元コーナーでは江戸時代、実際に使われていたそろばん、天秤などの道具を当時そのままに再現しており、落ち着いた雰囲気の中にも今日の銀行窓口のような忙しい風景を想像させる興味深い展示です。

(注)藩札：藩内の貨幣の不足を補い、通貨量の調整をするために作られました。藩札には「傘1本」や「炭1俵」などと書かれ、貨幣ではなく物品と交換を明示したものもありました。



重厚な雰囲気の両替屋。



象徴的な印象の針口天秤。

自分を「測る」体験コーナー

館内には江戸時代の千両箱や1億円分のお札の重さの体験、自分の体重は一万円札だといくら分の重さになるか、自分の身長は一万円札を積み上げるといくら分の高さになるか、などが計算できるコーナーがあり、これも人気を集めています。また、古いお札（日本銀行に回収された使用済み銀行券裁断片）を使用した壁紙があり、同じリサイクル技術を用いて作られた建築用材、固形燃料など、お札のリサイクルなどが学べます。

1万点を誇る貨幣資料

資料館のメインとなる貨幣資料は大きく日本の貨幣と外国の貨幣に分けて展示されています。日本の貨幣は古代から現代へと年代順に、世界の貨幣は国別、あるいは紙以外の素材による紙幣など



1億円分の重さを体験。



子どもに人気の体験コーナー。
左側はお札のリサイクルによる壁紙。

分野別に、わかりやすく見学することができます。特に貴重な資料である世界最大の金貨で豊臣秀吉が作らせた天正沢瀉（おもだか）大判や、世界最古の古代中国の貝貨、古代ギリシャ・ローマの貨幣、エジプトのクレオパトラ女王の肖像が描かれた銀貨やヤップ島の石貨などは詳しいパネル解説も充実しており、人気を集めています。

ビデオコーナーでは、日本の貨幣の歴史や資料館のコレクションである東海道五拾三次をわかりやすく紹介しています。

また、小学生・中学生向けに、展示の要所要所にクイズを盛り込んだ「おかねのクイズにチャレンジしよう」も人気で、100点満点で記念品がプ

レゼントされます。



明るく見やすい貨幣資料館内部。

日本の貨幣

○古代の貨幣

7世紀末から鑄造された「富本銭」、8世紀に本格的な流通貨幣となった「和同開珎」から始まる「皇朝十二銭」などがあります。

○中世の貨幣

宋銭（南宋・北宋）、永樂通宝（明）など、中国から輸入した貨幣が多く流通しました。

○天正沢瀉（おもだか）大判

天下を統一した豊臣秀吉がこれまでの金判を統一し、重さ165グラムという世界最大の金貨・天正大判を鑄造しました。現存3枚のうち1枚が所蔵・展示されています。

○江戸時代の貨幣

徳川家康の時代の慶長小判は重さ18グラム、純度86%と質量ともに良質な小判として知られています。また三代将軍・家光の時代、各地で寛永通宝が鑄造されました。この寛永通宝は幕末にいたるまで、長く庶民に親しまれた銭貨でした。

○近代の貨幣（明治時代）

明治2年、大阪に造幣局ができたことにより、硬貨が西洋諸国にならった円形の硬貨（様式貨幣）が採用されたり、明治5年、国立銀行条例が制定されたことにより金貨兌換の国立銀行券が発行されたりと、金融制度の大きな転換期を迎えました。



日本の貨幣のいろいろ

出典：資料館パンフレット

世界の貨幣

○古代中国の貨幣

殷時代（今からおよそ3,000年前）、当時貴重とされた貝が貨幣として使われており、これが世界最古といわれています。周の時代には青銅貨（布貨、刀貨）が生まれ流通していきました。

○古代ギリシアの貨幣

紀元前7～4世紀。地中海を臨む各都市には古くから優れた文化が生まれ、貨幣は美術品ともいえるべき精巧なものでした。

○古代ローマ・東ローマ帝国の貨幣

紀元前3世紀、イタリア半島中部の小都市ローマから興ったローマ帝国の貨幣のデザインは神々を表したものから始まり、帝政時代になると、皇帝は自分の肖像を入れた貨幣を発行しました。

○クレオパトラ女王の銀貨

クレオパトラの肖像を刻印した銀貨（紀元前32年）。この裏にはローマ軍人・アントニウスが描かれており、これはまさにプトレマイオス朝の滅亡とローマ帝国の興隆という歴史的な過渡期を象徴する貨幣です。



○ササン朝ペルシャの貨幣

3～7世紀。シルクロードを通して日本の古代文化のデザインにも影響を与えています。

○ヨーロッパの貨幣

コロンブスのアメリカ大陸発見を支援したイザベラ女王の金貨（スペイン・15～16世紀）、大英帝国発展の基礎を築いたエリザベス1世の銀貨（イギリス・1660年代）、皇帝の威厳が象徴されたレオポルド1世の銀貨（神聖ローマ帝国・1693）などがあります。

○ドイツの貨幣

1兆マルク貨（1923）は第一次世界大戦後の超インフレ期に発行された世界最高額のコインです。



出典：資料館パンフレット

広重の版画

この貨幣資料館にはもう一つ、広重版画という貴重な展示品があります。広重の代表作・東海道五拾三次については、金融の本義である「経済」「流通」に深く関わる題材といえる江戸時代の東海道を扱ったものであり、旧東海銀行の支店が東名阪に点在していたという経緯からも共通点が伺えるコレクションです。

その「東海道五拾三次 保永堂版」をはじめとする広重版画を毎回テーマごとに特別展として公開しており、現在は『名所 江戸百景の世界』と題して江戸時代の風景（版画）を現代の風景（写真）によって比較しながら楽しめる企画展が開催されています。

開館記念特別展

貨幣資料館移転オープンを記念して、資料館所蔵の名所江戸百景全揃を本年度3回に分けて公開しています。広重晩年の大作「名所江戸百景」は幕末の江戸市中や近郊の名所が四季折り折りの風物とともに詩情豊かに描かれた、120枚からなる作品です。

「名所江戸百景の世界Ⅰ」は4/20～6/25

「名所江戸百景の世界Ⅱ」は6/29～9/3

「名所江戸百景の世界Ⅲ」は未定



落ち着いた雰囲気で見賞できる。

東海道五拾三次—保永堂版—

出発点の江戸日本橋から終着点の京都までの55景で構成されています。歌川広重がその生涯に10数種類描いたとされる五拾三次のうち、芸術的完成度の高さで最も高く評価されている作品です。日本の風景版画を代表する作品としても高く評価されています。特に旅路の風景や風物を叙情豊かに臨場感あふれるタッチでまとめ、四季の情感や自然現象を時刻の変化まで取り合わせて各宿場を巧みに描いています。

施設の概要

住 所 〒461-0026
愛知県名古屋市東区赤塚町25番地
T E L 052-933-5151
F A X 052-933-7340
U R L <http://www.bk.mufg.jp>
開館時間 9:00～16:00（入館は15:30まで）
休館日 土・日・祝日（銀行窓口休業日）
入館料 無料
その他 団体・グループ見学は要事前連絡
交 通

【名古屋駅より市バス】

■名古屋バスターミナル7番のりば
基幹2 光ヶ丘・猪高車庫行「赤塚白壁」停下車
■名古屋バスターミナル5番のりば
幹名駅1 白壁経由大曾根行「赤塚」停下車

【栄より市バス】（オアシス21より）

■栄バスターミナル3番のりば
基幹2 引山・四軒家行「赤塚白壁」停下車
■栄バスターミナル4番のりば
栄14 上飯田行「赤塚」停下車
■栄バスターミナル5番のりば
栄12 安井町西行「赤塚」停下車

【大曾根より市バス】

■大曾根バスターミナル2番のりば
幹名駅1 白壁経由名古屋駅行「赤塚」停下車



インタビュー



三菱東京UFJ銀行貨幣資料館
館長 工藤 洋久 氏
(取材時館長、5/1より佐藤館長)

一三菱東京UFJ銀行貨幣資料館の目的、事業開始の経緯についてお聞かせください。

1961年に旧東海銀行創立20周年事業として旧東海銀行本店の中に貨幣資料館を作ろうということでスタートしました。ビル移転等はありませんでしたが今年で48年になります。資料館設立の目的としては、常に人々の生活に密接に関わる銀行はどのような社会貢献ができるか、このようなことを考え、金融を理解してもらおう一端となるような施設を目指したことが挙げられます。また、CSR推進事業（社会貢献・地域貢献）という面で、名古屋圏における拠点となるように、という意味もあります。

一施設や所蔵品についてお聞かせください。

所蔵品の内容については常設展示資料（世界の貨幣とその関係資料）が1万点、特別展示（東海道五拾三次等広重版画）が550点あります。特別展示では企画ごとにテーマを変えて提供しています。これらは1960～70年頃から収集を始めました。

また、当館は入場が無料でどなたでも見学していただけます。このことと関連しますが広告費は一切かけていません。この資料館はギャラリーやイベント会場ではなく、わたしたちの生活に密着

した「お金」について様々な視点から気軽に興味を持ってもらおう、というのがコンセプトです。

―入場者・おすすめの展示等についてお聞かせください。

入場者は幼稚園児からシニアまで多岐に渡ります。昨年では学校関係で250団体。その他大学ゼミ等、研究機関の方もいらっしゃいます。展示している貨幣資料をどういう見方で捉えるかは見学者の方次第です。大学の講義の一部として見学されている場合でも、金融＝経済学部だけとは限りません。江戸文化・大衆文学という視点で国文学部、貨幣のデザインという視点でデザイン学校、西洋の貨幣も広く収集していることから、音楽史やルネサンス史の研究者が見学されることもあります。つまりアプローチの仕方は見学者によって異なるので、私たちとしては、一方的や限定的な見せ方はせず、それぞれの見学者の方に役立ててもらえるような形で資料や情報を提供することが重要だと考えています。

人気の展示資料はやはり入場者によって視点が異なるため、様々です。これは言い替えばバリエーションが豊かだという強みでもあるので、この点を生かして説明文が断定的にならないようにしています。

おすすめの展示は、両替屋の復元資料です。これは元々日本一の規模なので、今回のリニューアルでも力を入れて屋根をつけました。これによりリアルに臨場感が出ましたし、入場口の正面に配置したことでもっとも先に目につくようになりました。貨幣資料としては世界最大の金貨である天正大判はやはり見ものです。この他にもクレオパトラ女王の銀貨など、歴史のターニングポイントとなる貨幣にはスポットを当てています。

―リニューアルオープン事業についてお聞かせください。

広小路通りにあった旧館が再開発計画の対象になり、移転とリニューアルオープンが決まりました。新しく移ったこの東区赤塚近辺は江戸時代に

は武家屋敷が並んでいた由緒ある地域です。昭和以降、空襲後の区画調整で変わってしまいましたが、明治時代に最も早く近代化事業が着手されたことから、この地域が長く名古屋の中心となっていたことが分かります。明治大正時代の貴重な施設・建造物が多く残っており、名古屋市が『文化のみち^(注)』として保存、整備等を進めているエリアです。当館もこちらに含まれているので、今回のリニューアルオープンで外装はれんが色に、内装は連子格子や明治以降の和洋折衷をイメージしたデザインにして周囲の施設に溶け込むような雰囲気になりました。

(注) 名古屋の近代化の歩みを伝える歴史的な遺産の宝庫ともいえる名古屋城から徳川園に至る地区一帯を「文化のみち」として育み、イベントの実施や、貴重な建築遺産の保存・活用をすすめています。(名古屋市HP)

―新館の展示方法、セールスポイントがあればお聞かせください。

展示方法について大きく変わった点は照明です。東京国立博物館の構成を参考に、最新の照明方法を取り入れました。以前に比べ、自然な明るさで資料が見やすくなったと思います。

また、展示面積自体は広がってはいませんが、以前よりユニークな展示物を増やしたので、配置はとて工夫しました。展示ポリシー(構成・展示総数)を守りながらより見やすく、分かりやすく、落ち着いた雰囲気で見学することに苦労しました。立地や内装等、雰囲気が大きく変わったことに伴い、旧館で使っていたパネル・サイン等



かまぼこ型が独特な展示照明。

も替えました。

ここではあまり大掛かりな資料をいくつも展示しているわけではないので、圧迫感のない雰囲気です。ゆったりと落ち着いて過ごしてもらえよう、「勉強の場」「仕事の場」という印象にならない『落ち着いた展示空間』を提供したいと考えています。スペース等、限られてはいますが最大限そのような配慮を心がけています。さらに、ハード面については省エネ機材を用いて、環境活動への貢献も意識しています。

ただ、展示品に関しては貨幣資料ということでハンズオン展示など、体験できる資料があまり多くありません。子どもも楽しく見学できるよう、体験コーナーの充実やクイズ形式のワークシートを設けるなどして対応しました。

一地域における役割、貢献についてどのようにお考えでしょうか。

名古屋市は他の都市に比べてコースで回遊できるような歴史散策ルートがまだまだ乏しく感じま

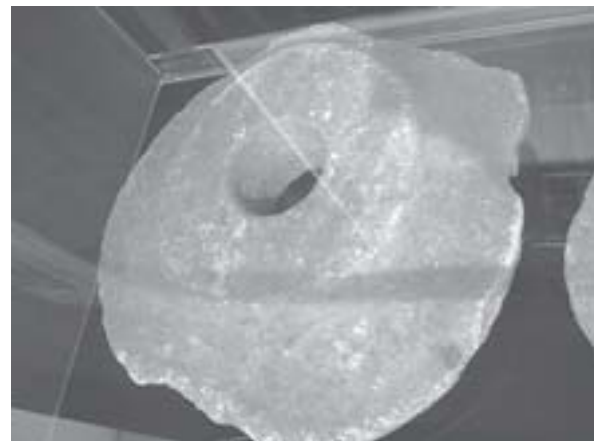
すが、そのようなルート作りに適当な資源は多く点在していますし、名古屋城や徳川園という日本を代表する遺産・施設を擁するこの『文化のみち』エリアもどんどん整備されています。この地域に溶け込んだ施設になるよう、雰囲気づくりに努めています。もちろん「箱物を作って終わり」「資料を見せて終わり」にならないような展開、地域や他施設との連携も欠かせません。常に見学者の立場に立って、ニーズ・視点を考え、その姿勢を維持しながら運営することが不可欠だと考えます。

一産業観光へのご意見をお聞かせください。

ここ数年で産業観光という言葉が定着してきたと感じます。産業観光では多くが古くから培ってきた技術やモノを取り上げますが、それをただノスタルジックに見せるだけではなく、過去・現在・未来という流れやつながりを見通すための材料となるような仕掛けや視点を促すことが重要だと思います。先人の苦勞を知りながら今、未来はどう



資料館の代表的な展示物をモチーフにしたエントランス。



世界最大の貨幣。貨幣価値は大きさでも重さでもなく「その貨幣にまつわるエピソード」による。



『文化のみち』マップ 出典：名古屋市パンフレット。

あるべきかを考えるきっかけになるように、まさに『温故知新』の精神で臨むことが求められるのではないのでしょうか。

—今後の抱負や方向性、課題等についてお聞かせください。

今回移転して、東区赤塚という地域で文化のみちエリアに溶け込みながら今まで培ってきた貨幣資料館としての魅力をどうアピールできるか、ということが大きな課題として挙げられます。再来年は開館50周年を迎えるという節目の時期でもありますし、他の施設との連携の中で、入場者の方々や地域の方々に認めてもらえるような展示・企画等の努力をするということもあります。

ただ、あくまで銀行の施設なので、このような資料館としては土日に開館できない、というところはネックだと思いますが、限りなく一般の同じような施設に近づけた形態で運営したいと考えます。例えば親子、または祖父母と孫、というような家族単位で来てもらいやすい春休み、夏休みシーズンに特別展示を開催しています。「お金」というどの世代にも受け入れやすい資料を扱っているので、この点では世代を超えた人々の交流を図れると思います。

また、見学者のニーズにタイムリーに対応することも大事です。以前、紙幣で壁面パネルを作ったとき、見学していた親子が「いくらぐらいなんだろうね」と話していたので、すぐに調べて「1億2千万円分です」とお答えしたことがありました。このような会話や眩きにすぐ対応できる反射神経が必要です。資料館へ来て、新たな謎や疑問が発生してはならない、というのがわたしたちのモットーです。



工藤館長からバトンタッチされる佐藤館長。